

## ハマナス公園における鳥類相とその季節変化

柳町 邦光\*

The bird fauna and seasonable variation of Hamanasu Park

Kunimitsu YANAGIMACHI\*

(要旨) 海岸の砂丘地に形成されているクロマツを主とした自然林内のハマナス公園において、そこに渡来する鳥類相を2007年9月より一年に亘って調査したところ、11目29科66種が出現した。その内訳は留鳥が36種、冬鳥が21種、夏鳥が6種、旅鳥が3種であり、これらのうち10種が繁殖している可能性が極めて高かった。この調査区域は海岸に面しており、春秋の渡り時期には多くの種がその中継地として利用していたことから、この自然環境を保全するため、および鳥類相の消長を知るためにも、今後も定期的な調査を継続していく必要があるだろう。

キーワード：ハマナス公園，鳥類相，渡りの中継地

### 1 はじめに

自然環境を保全するにはその区域における生物の生息・生育環境について、その種類、面積、自然構造等を多角的に分析し、その結果を資料として残し実際に応用していくことが重要である。鳥類においても、環境の違いおよび季節の変動によって生息する種類や種数が異なること知られている。そこで、同じ場所において長期的なスパンで鳥類相の比較ができれば、その自然環境の変化も見えてくるであろう。

ハマナス公園は、福井市および坂井市に広がる三里浜砂丘地に建設された福井県臨海工業地帯の西端に位置しており、2004年に福井県が自然観察公園として整備したものである。公園は日本海に面した砂浜、防砂林および緩衝緑地で構成されたいわゆる海岸の松林であり、その東端には農業用水が流れ込む池と湿地も形

成されている。この池を囲むようなルートおよび林内を通るルートの自然散策路、3カ所の野鳥観察舎が建設され、念願のバードサンクチュアリとしての施設でもある(図1)。

そこで、ハマナス公園に生息または渡来する鳥類とその季節変化を明らかにし、今後の生息状況との比較資料とするために、2007年9月より1年間に亘って調査を行った。

### 2 調査地および調査方法

ハマナス公園は福井市川尻町地係に位置し(135°05 E, 36°08N)、その北側は日本海に面した砂丘地(通称：三里浜)、防砂林および緩衝緑地で構成されている面積約1.7 haの自然林である(図2)。調査地の樹木はクロマツ、ニセアカシヤ、ハンノキ等の高木およ



図1. 野鳥観察舎と観察池

\*〒918-8046 福井市運動公園1-2703

\*1-2703 Undokoen, Fukui City, Fukui 918-8046, Japan

表1. 調査区域の出現鳥種およびその生息密度の一覧

目 Order	科 Family	鳥種 Species	学名 Scientific name	渡り 区分	2007年								
					9/17	9/26	10/10	10/24	11/7	11/24	12/9	12/22	
カイツブリ	カイツブリ	* カイツブリ	<i>Podiceps ruficollis</i>	留						1			
ペリカン	カイツブリ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	冬・留									
コウトリ	キジ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	留・夏			2						
		ダイサギ	<i>Egretta alba</i>	留			1						
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	留				1	1				
ガンカモ	ガンカモ	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	冬									
		カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	留									
		ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	冬									
		キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	冬					4				
		スズガモ	<i>Aythya marila</i>	冬								1	1
		ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	留									
ウツカ	ウツカ	* トビ	<i>Milvus migrans</i>	留	1	2	4	1	2	3	5	1	
		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	冬				1				1	
キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	留				2		1	1		
ツル	クイ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>	留									
		オオバン	<i>Fulica atra</i>	冬									1
ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	留		2		1					
ブッポウウ	カセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	留	1								
キツツキ	キツツキ	アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	留		1							
		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	留		1							1
		コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	留	6	4	2	3	1	6	7	6	
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	留		4							
	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	夏	9	2	3						
	セキレイ	* ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	留		4	14	2				2	
		* セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	留	2		1	3	2	1	2	1	
サンショウクイ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	夏									
ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	留・漂	8	13	41	193	58	56	31	41	
モズ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	留	1			3	5	3	1	1	
レンジャク	レンジャク	ヒレンジャク	<i>Bombicilla japonica</i>	冬									
ミソサザイ	ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	留									
ツグミ亜科		ルリビタキ	<i>Erithacus cyanurus</i>	漂・冬								3	1
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	冬					3	3	3		
		ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	旅			1						
		トラツグミ	<i>Turdus dauma</i>	留									
		クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	夏				1					
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	冬			1	23		1			4
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	冬				1					2
ウグイス亜科		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	留				4	4	8	6	4	
		コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	旅									
		キマユムシクイ	<i>Phylloscopus inornatus</i>	旅	1								
		メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	夏			2						
		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus occipitalis</i>	夏		3	2	3					
		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	冬					7				
ヒタキ亜科		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	夏	1								
エナガ	* エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	留				8	8				
シジュウカラ	ヒガラ	ヒガラ	<i>Parus ater</i>	留					2				6
	ヤマガラ	ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	留	2							2	
	* シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus major</i>	留	8	2	8	14	11	11	9	9	
メジロ	* メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonica</i>	留	6	11	9	19	11	22	12	27	
ホオジロ	* ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	留	21	36	39	38	37	24	17	22	
	カシラダカ	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	冬				2		3	14	13	
	ミヤマホオジロ	ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	冬					4	9	3		
	アオジ	アオジ	<i>Emberiza sspodocephala</i>	冬	1			2	5	2	6	11	
	オオジュリン	オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	冬				2	2				2
アトリ	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	冬				2			6		
	* カワラヒワ	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	留	7	14	21	28	24	37	15	23	
	マヒワ	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	冬									
	ベニマシコ	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	冬									
	ウソ	ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	冬									
	イカル	イカル	<i>Eophona personata</i>	留									8
	シメ	シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	冬							18		12
ハオトリ	* スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	留	12	16	31	11	12	16	2	49	
ムクドリ	ムクドリ	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	留								21	
カラス	カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	留									
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	留	2	2	4	7	6	11	3	1	
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	留	2					9	6	2	
11目	29科	66種		種数合計	19	16	18	26	22	20	24	26	
				個体数合計	93	117	186	375	210	244	178	250	

\* : 調査区域内で幼鳥が確認された種 (10種)

ハマナス公園における鳥類相とその季節変化

鳥種	2008年																総計
	1/5	1/19	2/1	2/16	3/2	3/22	4/5	4/13	5/4	5/21	6/7	6/24	7/7	7/19	8/6	8/22	
カイツブリ		1	1	1	2	1	2	2		1							12
カワウ							1										1
ゴイサギ															1		3
ダイサギ								1								1	3
アオサギ	1	1		1		1		1		1		1	2	1	1	1	16
マガモ						4											4
カルガモ				2	2	3	2	2	1		1	7					20
ホシハジロ			1	1	1												3
キンクロハジロ																	4
スズガモ	1	1		1													5
ミサゴ								1									1
トビ	3	2	4	1	3	2	1	2	1	1	2	1	3	1	1	3	50
ノスリ																	2
キジ				1		2	5	2	3		1	1					19
バン							1										1
オオバン																	1
キジバト	1			3			2	4	3	2				1			19
カワセミ																	1
アオゲラ							1										2
アカゲラ	1	1		1	1	1											7
コゲラ	1	3	4	2	8	3	6	6	1	3	4	1	2	2	3	2	86
ヒバリ						3	6	6	8	9	7	13	5				61
ツバメ							4	4		11	8	14	1	4	7	2	69
ハクセキレイ							4			4							28
セグロセキレイ				1	1	2	4	2		4	1	1	8	11	6	4	57
サンショウクイ									1		1						3
ヒヨドリ	59	37	28	17	28	4	12	29	26	19	13	26	23	18	4	24	808
モズ	1	2	1	2	1	2	3										26
ヒレンジャク								27									27
ミソサザイ	1				1												2
ルリビタキ	1	3			1	1	3										13
ジョウビタキ					1		7	1									18
ノビタキ								2									3
トラツグミ				1													1
クロツグミ																	1
シロハラ	4	8	22	36	29	9	9	5	2								153
ツグミ		19	18	4	4	4	3	5									60
ウグイス	4	2	2	3	4	6	5	7	4				2				65
コヨシキリ										6							6
キマユムシクイ																	1
メボソムシクイ									5	16							23
センダイムシクイ																	8
キクイタダキ	8	5		6		4											30
キビタキ									3	1							5
エナガ	13			6	12	11	7	8							2		102
ヒガラ	6																14
ヤマガラ																	4
シジュウカラ	13	17	4	3	9	7	11	7	6	5	6	23	14	3	6	7	213
メジロ	23	39	39	21	29	6	14	13	28	18	7	21	11	11	9	16	422
ホオジロ	18	14	2	7	21	32	35	27	19	25	38	39	27	25	19	23	605
カシラダカ	6			6	4												48
ミヤマホオジロ					4	6											26
アオジ	7	5	7	3	3	4	6	4	4								70
オオジュリン	5						4	3									18
アトリ				7													15
カワラヒワ	21	28	21	12	33	28	32	27	18	23	32	28	24	21	38	4	559
マヒワ			4														4
ベニマシコ				2		2	2										6
ウソ	2			2													4
イカル	2			4						3	5	2	4	2	2		32
シメ		3	2		1			1									37
スズメ	7	12	8	6	5	7	14	19	5	29	12	24	19	19	21	17	373
ムクドリ														4			25
カケス					2												2
ハシボソガラス	4	5	4	3	9	6	3	3	2	4	5	6	3	3	7	7	110
ハシブトガラス				2													21
	26	21	18	32	27	27	29	29	18	20	17	17	15	15	15	15	66
	213	208	172	168	219	161	205	221	135	174	159	235	148	126	127	114	4438

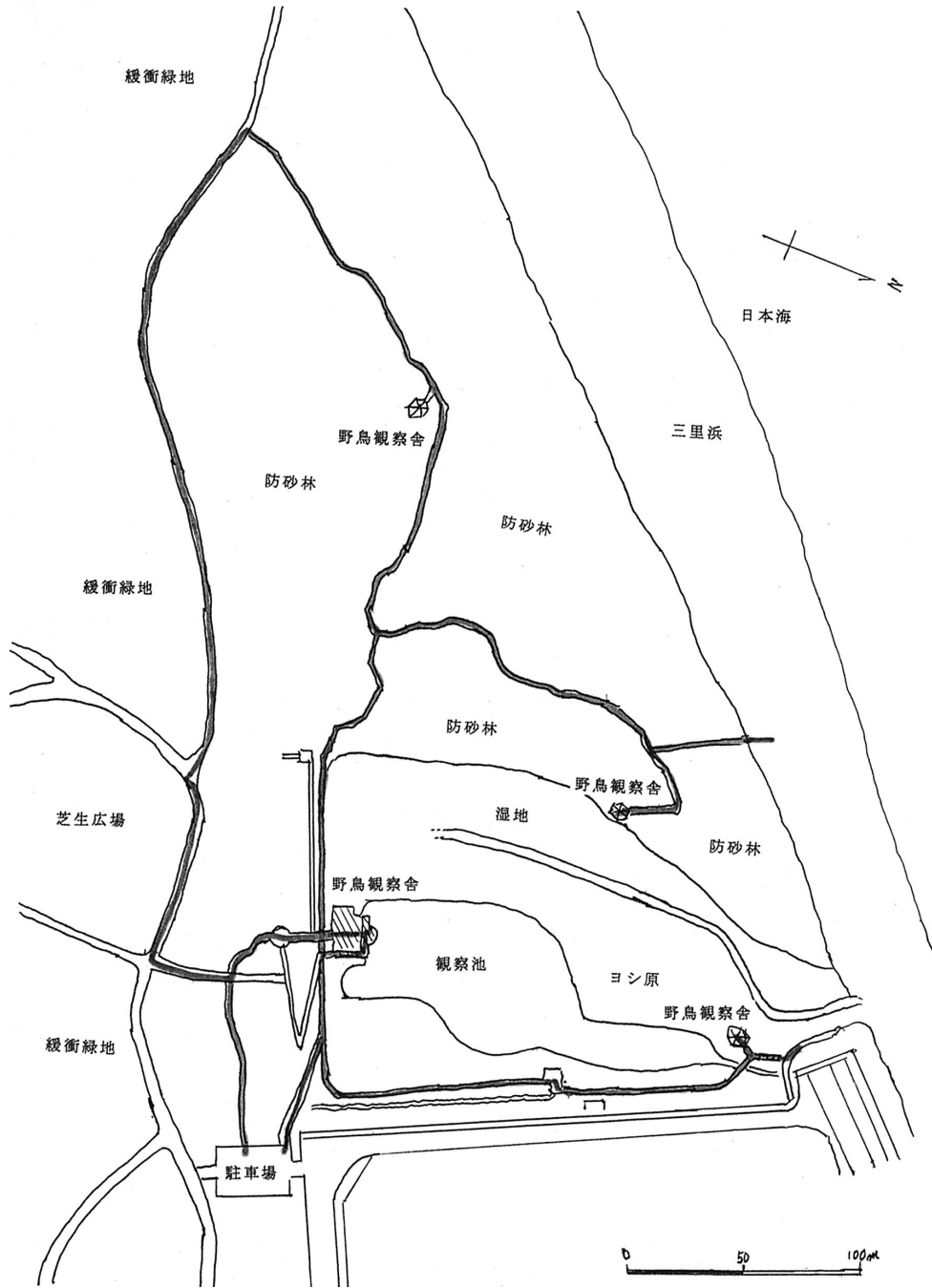


図2. 調査区域と調査ルート

びトベラ、コマユミ等の中高木および低草木で構成されている。

調査方法は、公園内にある自然観察路の片側約25mずつ、両側で約50mの幅で約1.6kmをおよそ1km/hのゆっくりした速さで歩き、10倍の双眼鏡を使用して見聞きできる鳥種とその個体数をカウントする方法で行った。調査日は、毎月2回定期的に晴れまたは曇りで風の少ない日の朝7:30ごろより約1時間、同じルートを歩いて実施した。

### 3 結果

調査期間中に出現した鳥類は66種で表1に示す。但し、海上で観察された水鳥種については調査区域外として除外した。また調査時において聞き漏らしや見過ごしもあったと思われるが、福井県産鳥類については1998年4月現在で317種であり(福井県, 1998)、今回の調査ではこの20.8%であった。これらを渡り区分で分類すると、留鳥が36種、冬鳥が21種、夏鳥が6種、旅鳥が3種であった。しかし、この場所は日本海に面しているため、春・秋の渡り時期には夏鳥であるメボ

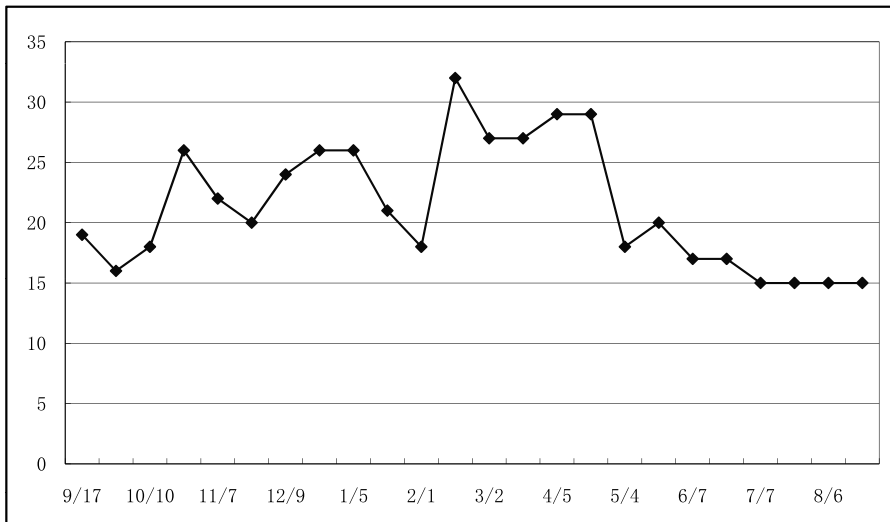


図 3. 調査日と種類の変化

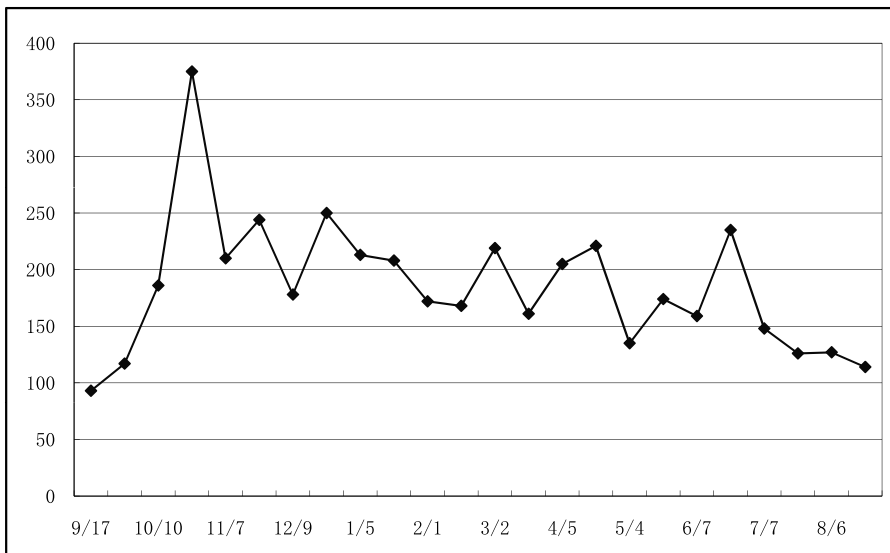


図 4. 調査日と個体数の変化

ソムシクイ、サンショウクイ、クロツグミ等は一時的に利用している種であり、渡り区分で明確に分けられるものでもないと考えられる。

出現種の中には、重要な種として福井県レッドデータブックー動物編ー（福井県、2002）に記載されている絶滅危惧Ⅰ類のミサゴおよび絶滅危惧Ⅱ類のノスリとサンショウクイが確認された。ミサゴは上空通過しているのが、ノスリとサンショウクイは調査区域内のクロマツに止まっているのが確認された。

調査期間中の調査日と種数の変化を図3に、調査日と個体数の変化を図4に示す。年間を通して毎回出現した種はトビ、コゲラ、ヒヨドリなど9種類の留鳥だった。調査期間中における種ごとの総個体数が最も多かったのはヒヨドリであったが、これは秋の渡り時季に大きな群れが確認されたことによると思われる。次いでホオジロ、カワラヒワ、メジロ等が多かったが、これらは晩秋から冬季～早春に増加し初夏から秋にかけては少なくなる傾向を示した。5月～6月の繁殖期にお

いて、カイツブリやトビなど10種は幼鳥等の出現により繁殖が確認された。

特徴的なところを挙げると、秋の渡り時季にはヒヨドリの大きな群れが確認されているが、やはり晩秋から早春には多い傾向が見られた。また、シロハラヤツグミ、ハクセキレイなどにはその個体数が急に多くなる日もあり、このことは移動時期にこの海岸地帯を利用していることを示している。また海岸地帯であるため積雪はほとんど無く、里山の積雪期にはここに集まってくるものと思われる。メボソムシクイの移動は、その鳴き声から亜種コメボソムシクイと亜種メボソムシクイとに分けられ、前半にコメボソムシクイが出現し、約2週間後にはメボソムシクイが出現したことから、その移動に種間差が見られた。

観察池の開放水面は約50aと狭く、カモ類もマガモなど5種類であり、種数および個体数とも少なかった。また水辺のヨシ原も狭くオオヨシキリの出現はなかった。

調査期間中は概ね月2回のペースで調査を実施したが、春秋の渡り時期には十分な調査回数とは言えず、実際にこの調査日以外にも表1に掲載されていない種、たとえばオオルリ (*Cyanoptila cyanomelana*)、アカガシラサギ (*Ardeola bacchus*)、オジロビタキ (*Ficedula parva*) などが出現している。今後は回数を増やすことおよび夜間調査の実施によって精度を上げることが必要だろう。更にこの調査区域において定期的に且つ継続した調査を行うことによって、鳥類相に関する知見を得ること、および渡り鳥の中継地として利用できる自然環境の保全へと繋げていくことが重要であろう。

#### 引用文献

- 福井県, 1998, 福井の鳥とけものたち. 福井県, 222p.  
福井県, 2002, 福井県の絶滅のおそれのある野生生物 (福井県レッドデータブック-動物編). 福井県, 242p.

#### The bird fauna and seasonable variation of Hamanasu Park

Kunimitsu YANAGIMACHI

#### Abstract

The bird fauna and annual change were studied inside of natural forest Hamanasu Park which is located on the sand hill near seaside where mainly Japanese black pines grow well. A total of 66 species, of 29 families and of 11 orders was recorded during one year until Aug. 2008 since Sept. 2007. The breakdown is as follows, seasonable structure were 36 resident, 21 winter, 6 summer and 3 migratory. Among them, 10 species are very likely breeding with high possibility in this area.

Many birds have made good use of this area as rest spot on the migratory way in spring and autumn season, because of facing to seaside at this observed area. For preservation of nature environment and study of the bird fauna, we have to keep on observing and watching this area periodically.

**Key words** : Hamanasu Park, bird fauna, rest spot of the migratory way